

# 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した 小学校英語の模擬授業につなげる教員養成の視点

佐藤 大介\*1

## 要 旨

GIGA スクール構想によって、児童生徒 1 人 1 台端末が整備され、子供たちは「個別最適な学び」を進められるようになった。「個別最適な学び」は「指導の個別化」と「学習の個性化」を学習者視点から整理した概念で、「協働的な学び」を含め一体的に充実させていくことが求められている。一方で、教師の ICT 活用指導力について、オンライン上のコラボレーションや最新の ICT 活用教育に関する研修・情報収集といった点で課題が指摘されている。そこで、教職課程において、ICT 活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した小学校英語の模擬授業の進め方について考察を行った。具体的には、年間指導計画・単元計画・学習指導案に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点を含むことや、児童の一斉学習、個別学習、協働学習といった各場面に応じた ICT 活用を模擬授業に取り入れる等、教職課程で用いることが可能なチェックリストを提案した。

Keywords : 個別最適な学び, 協働的な学び, 小学校英語, 模擬授業, 教員養成  
individual optimal learning, collaborative learning, mock class, English language  
teaching in elementary school, pre-service teacher training

## 1. はじめに

GIGA スクール構想（文部科学大臣，2019）によって、児童生徒向け 1 人 1 台端末と高速大容量通信ネットワーク環境の整備が進み、子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の充実が急速に図られた。特に、児童生徒 1 人 1 台端末の整備・実現により、子供たちは「個別最適な学び」を進められるようになった。「個別最適な学び」とは、「指導の個別化」と「学習の個性化」を学習者視点から整理した概念である（中央教育審議会，2021）。「指導の個別化」とは、教師が支援の必要な子供への重点的な指導によって効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に対して適切な指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことである。「学習の個性化」とは、教師が子供一人ひとりに応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することにより、子供自身の学習が最適となるよう調整することである。さらに、「個別最適な学び」だけではなく、「協働的な学び」を含めた一体的な充実によって、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要であると指摘している（中央教育審議会，2021）。また、「協働的な学び」を進めるためには、集団の中で個を埋没させないこと、子供一人ひとりのよい点や可能性を生かすこと、異なる考え方が組み合わせによってよりよい学びを生み出していくこと、お互いの感性や考え方等に触れ刺激し合うことが重要で

---

\*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科

あると述べている。文部科学省初等中等教育局教育課程課（2021）は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」は2つの要素が組み合わさって実現するとし、例として、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するといった方法を提案している。また、新しい学習活動による「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実に対する効果を確認しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくよう明記している。こうした子供たちの学びを進めるため、文部科学省初等中等教育局教育課程課（2021）は、「個別最適な学び」のための ICT 教材として、学習者用デジタル教科書、学習動画、ドリル教材、電子書籍、STEAM 教育向けのコンテンツや、様々な紙の教材と組み合わせた指導を想定し、「協働的な学び」のための ICT 活用としては、空間的・時間的制約の緩和によって、遠隔地の専門家とつないだ授業や他の学校・地域や海外との交流等を想定している。さらに、こうした教材を活用した学びに対応できる教師の指導力育成も必要であると指摘している。

佐藤（2022）は、小学校教員の小学校英語教育における ICT 活用に関する調査を行っており、課題として、オンライン上のコラボレーションや、最新の ICT 活用教育に関する研修・情報収集といった点を挙げている。これらの課題については、様々なデジタル教材やオンライン教育サービス等が教育現場に提供される中で、こうした最新の情報収集や研究に関する力は児童の「個別最適な学び」に必要であり、また、オンライン上での学校間・地域間・教員間のコラボレーションは「協働的な学び」を進めていくために必要であると考えられる。中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会によるまとめ（2020）や、文部科学省総合教育政策局長による通知（2021）からも、こうした ICT 活用指導力については、教員養成において身に付けておくことが肝要であると考えられる。

上記より、本稿では、教職課程において、ICT 活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した小学校英語の模擬授業をどのように進めていくのか考察し、大学担当教員が模擬授業に取り組む学生に対して行うべき指導方策について検討する。

## 2. 背景

### 2.1 小学校英語における ICT 活用

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）（文部科学省，2017b）の「第 10 節 外国語 3 指導計画の作成と内容の取扱い」及び「第 4 章 外国語活動 3 指導計画の作成と内容の取扱い」には次の記載があり、ICT 機器の有効活用や児童の興味・関心を高めるための活用について明記している。

オ 児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態，教材の内容などに応じて，視聴覚教材やコンピュータ，情報通信ネットワーク，教育機器などを有効活用し，児童の興味・関心をより高め，指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。

また、文部科学省（2020a）は、学習場面に応じた ICT 活用について、(1) 一斉学習（教師による教材の提示）、(2) 個別学習（個に応じた学習、調査活動、思考を深める学習、表現・制作、家庭学習）、(3) 協働学習（発表や話し合い、協働での意見整理、協働制作、学校の壁を越えた学習）の 3 点に分類しており、小学校外国語活動・外国語における具体的な活用例として、次の 6 点を挙げている（筆者によるまとめ）。

- ・英語の音声を繰り返し聞くことや、絵や映像による児童の理解の補助
- ・児童が自分のことを英語で伝える場面や言語活動の設定
- ・テレビ電話等の利用による、現実的な学習の場の提供
- ・言語活動におけるモデルの提示
- ・大型提示装置等への投影による、「書く」指導におけるスペースや語順への視覚的な意識付け
- ・英語学習への動機付け

段本・竹内（2022）では、ICT を活用することにより、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進し、言語活動を中心とした外国語の学習を効果的に進めることを目指した取り組みについて報告している。成果として、ICT を活用したことにより児童が自信を持って話すことができた点や学習意欲の向上に寄与したこと、また録画によってリアルタイムで自身の振り返りができ、学習改善ができた点を挙げている。しかし、課題として、タブレット端末の操作に集中したことにより、表情や話す速さ等のコミュニケーションの態度面における姿が見られなかった点について言及している。

## 2.2 教員養成における小学校英語の模擬授業と ICT 活用指導

小学校教員養成課程外国語（英語）コアカリキュラム（文部科学省，2017a）では、外国語の指導法における授業実践に関する学習について、①授業観察、②授業体験、③模擬授業、の 3 つの学習形態を必ず盛り込むこととしている。特に、模擬授業においては、計画、準備、実施だけではなく、その後の振り返りや改善、再計画も含めた指導が必要であるとしている。

永倉（2021）は、小学校外国語教育が取り巻く状況や文部科学省が小学校教員に求める英語指導力、そして学生の実態から、教職課程における教育・研究活動を報告している。小学校外国語の授業見学や情報共有コミュニティを通して現場の実情把握・現職教員と学生の交流によって授業改善が図られている点や、クラウド上での学習指導案と模擬授業動画の共有や活動紹介のためのブログ運営という ICT 活用によって、学生の主体的・協働的活動が促進している点を成果として挙げている。

また、佐藤・福島（2019）は、小学校英語の模擬授業において、学生フィードバックに ICT

を活用した実践を報告している。学生による模擬授業を動画で撮影し、模擬授業を観察している学生によるリアルタイムフィードバック（レスポンス）と、学習管理システムを活用した記述式のフィードバックの2点を分析している。その結果、学生は模擬授業観察の前に、授業観察の視点や指導技術向上のための必要条件について、十分に理解しておくことが必要であると結論付けている。しかし、学生が模擬授業観察に集中したことによって、レスポンス数が少なかったという課題についても報告している。

### 3. ICT を活用した小学校英語の模擬授業に関する提案

前述より、学生が ICT を活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した小学校英語の模擬授業を進めていくために、学習しておくべき視点について次の 5 点を提案する。

#### (1) 年間指導計画・単元計画・学習指導案の作成について

学生が模擬授業に取り組むため、まず、年間指導計画・単元計画・学習指導案の作成では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した検討が必要となる。

学習指導案の作成では、「個別最適な学び」をどのように進めていくのか記述する必要がある。「個別最適な学び」や「協働的な学び」について学習指導案に記述する方法として、鹿児島県総合教育センター学習指導案のページ（2023）に掲載されている学習指導案が参考になる。令和4年度鹿児島市立山下小学校の学習指導案では、単元計画及び本時案（展開）の「主な教師の手立て」欄に、「○指導の個別化 ●学習の個性化」の2点を記号で分けた記述方法を行っている。令和4年度鹿児島市立吉田南中学校の学習指導案では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」に着目した「授業デザイン」に関する項目を記述した上で、本時案（展開）に「形態」として「一斉」「個人」「各自」「ペア」「班」「グループ」といった生徒の学習形態に関する記述を行っている。

また、学習指導案の検討方法として、秋田県総合教育センター（2023）は、「個別最適な学び」を黄色、「協働的な学び」を青色、「ICT の活用」をピンクに色分けした付箋を付け、学習活動や教師の支援についてアイデアを書き込み、その後一体的な充実を図ることができる場面についての考察を行う形式での演習を実施している。この演習を通して参加した受講者に、新たな気付きや授業改善に対する意識向上が見られたと報告している。

年間指導計画・単元計画・学習指導案の作成にあたっては、学生は、児童が取り組む学びの種類や展開について十分に検討し対応していくことが求められると同時に、適切な学習場面での ICT 活用を検討しなければならない。

#### (2) 一斉学習における ICT 活用

児童による小学校英語の一斉学習では、教師による ICT 活用として、提示機能と再生機能の2点が考えられる。

提示機能では、模擬授業を行う学生はパソコンの画面等をスクリーンに投影したり電子黒板に表示したりする。そのためには、模擬授業時の板書計画について、黒板だけではなく、パソコンで提示する画面を含め、十分に検討した上で提示する画面（スライド等）を準備する必要がある。アニメーションを活用したスライドで説明を行う際は、学習指導案に記述する板書計画に授業の流れや構造を示すほか、アニメーションによる手順を明記することで、より具体的な授業イメージをつかむことができると考えられる。また、重要な役割を果たす提示コンテンツとして、学習者用デジタル教科書（外国語活動では「デジタル教材」）がある。学校で児童が使用している教科書のページがそのままデジタル化され、各アクティビティをデジタル教科書内で指導に活用することができる。

また、再生機能を用いれば、英語の音声や歌、また映像を再生し、よりオーセンティックな教材として活用することができる。模擬授業では学生は、「音声のみの教材」と「映像を含めた音声教材」のどちらを指導に利用するか、児童の学習過程や学習負荷を十分に検討し計画する必要がある。また、デジタル教科書等に備わっている再生機能として、再生・停止、音量調整、速度調整、文字の表示・非表示といった操作が可能であり、模擬授業では、単なる再生・停止のみではなく、様々な機能を用いて、より効果的な指導につなげていかなければならない。

### (3) 個別学習における ICT 活用

一斉学習で活用した音声又は映像教材を使って、児童は各自の端末を活用して何度も繰り返し、音声を聞き直したり、映像を見直したりして、一斉学習の際に理解が不十分であった点の確認をしたり、前時の復習をしたり、また、新出語彙の練習に取り組んだりするといった個別学習における ICT 活用が考えられる。録音や録画の機能を備えている端末・システムであれば、児童は自らの音読や発表を録音・録画し、教師に提出することも可能である。こうした録音・録画したデータは児童自身の振り返りにも活用することができ、クラウド又は端末に保存しておくことによって、過去の自分の音読や発表と比較し振り返りにも活用することができる。また、児童は教師が用意した語彙や表現に関するゲームやクイズに取り組むことで、教師は児童の学習状況を把握することも可能である。さらには、児童は課題として、自分の意見や考えを発表するための原稿やスライドを作成する活用方法もある。この場合、教師は入力可能なオンラインフォームを用意したり、必要なアプリケーションを準備したり、または、児童が端末上で文字を入力したり、画像を移動させたりできるワークシートファイルを作成する等し、児童に提供することで、指導の効率化を図ることも期待できる。

しかしながら、教職課程の限られた授業時間において模擬授業をすべての学生が取り組む場合、模擬授業中に児童役の学生が個別学習に取り組む時間を確保することは難しいと予想される。そのため、児童が ICT を活用した個別学習を行うことを想定した模擬授業を学生に考えてもらうためには、まず、学生は個別に行う学習内容を検討し、学習指導案に記述する。その後、模擬授業でその時間を取ることができないため、事前に児童役の学生に個

別学習用の教材を配信（配信）し、模擬授業の前に学習してもらうことによって、「個別最適な学び」を意識した模擬授業展開が可能となる。こうした工夫によって、教科に関する指導法において、個別学習の内容や教材について学生が学ぶ機会を提供することが可能となる。

#### **(4) 協働学習における ICT 活用**

協働学習での ICT 活用については、児童が個別学習において練習した英語を使って、他の児童に伝え合ったり、答えたりする活動や、児童の発表に対するフィードバック、ビデオ会議システム等を用いて他の小学校の児童や外国の方との交流等が考えられる。学生による模擬授業では、学校外との通信を想定した授業は現実的ではないため、本稿では同じ学級にいる他の児童とのコミュニケーション活動のための ICT 活用を検討する。

コミュニケーション活動においては、個別学習の時間に児童が作成したスライド（例えば自己紹介や夏の思い出、将来の夢等）を自分の端末に表示させ、相手に見せながら発表し、聞いている児童は共有画面上で、発表している児童へのフィードバックを入力する。また、ワークシートを児童間で共有することが可能な教育 ICT 環境が整備されている場合、児童が作成したスライドを、他の児童と読み合ったり、他の児童にコメントを入力したりすることも考えられる。

#### **(5) 模擬授業での ICT 活用に向けた技術向上**

学生の ICT 活用指導力の育成は、教科に関する指導法の授業のみで身につくものではない。ソフトウェア上の操作だけではなく、ハードウェアの特性や機器の接続についても模擬授業に向けて事前に体験・学習し、理解しておかなければならない。また、児童が使用するアプリケーションやデジタル教科書についても設定方法や操作方法に熟知しておく必要がある。さらには、模擬授業の準備のための ICT 活用といった一過性のものとならないよう、教育現場での ICT 活用に向けた不断の技術向上は必須要件である。こうした模擬授業を実現する前提として、教職課程を持つすべての大学は、学習者用デジタル教科書であれば、学生は自由にアクセスし、使用方法を学習したり、活用方法を研究したりすることができる環境を整備する必要がある。協働学習のための ICT 活用では、履修学生のみに限定された教育用グループウェアや学習管理システムを整備し、学校現場での教師と同等の権限を学生に与え、児童間の共有設定の方法等についても理解を図っていく必要がある。こうした学習環境を、教職課程をもつ大学は学生に提供することが必然である。

#### **4. まとめ**

本稿では、ICT を活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した小学校英語の模擬授業の進め方について検討を行った。この検討から、大学担当教員は模擬授業に取り組む学生に対して行う指導方策として、次の「模擬授業ための学生向けチェックリスト」を

提案する。

- (1) 年間指導計画・単元計画・学習指導案に、「個別最適な学び」（指導の個別化，学習の個性化を含む）と「協働的な学び」の視点が記述されているか。
- (2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」が相互に関連した授業展開となっているか。
- (3) デジタル媒体の提示に対応した板書計画となっているか。
- (4) 児童の個別学習の内容に適した教材や資料を用意しているか。
- (5) 児童の協働学習の内容に適した教材や資料を用意しているか。
- (6) 機器やアプリケーションの操作方法及び設定方法を理解しているか。
- (7) 児童の学習場面に対応して，アナログまたはデジタル（ICT 活用）を用いる意義について説明できるか。

この視点を模擬授業に取り組む学生に指導することによって，学生は児童の学びに視点を向けた学習指導案の作成を行い，より効果的に ICT を活用した模擬授業の実施につながれると期待される。このチェックリストは小学校英語の模擬授業に限定するものではない。そのため，今後は教科に関する指導法の授業で活用し，学生の視点の変容や，学生の ICT 活用指導力向上への効果について検証したい。

## 文 献

- 秋田県総合教育センター. (2023). 秋田県総合教育センター令和 4 年度研究紀要. 秋田県総合教育センター. <https://www.akita-c.ed.jp/~ckyk/kenkyu/r4/R4index.html>
- 中央教育審議会. (2021). 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）. 文部科学省ホームページ. [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm)
- 中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会. (2020). 教職課程における教師の ICT 活用指導力充実に向けた取組について. 文部科学省ホームページ. [https://www.mext.go.jp/content/20201113-mxt\\_kyoikujinzai01-000011039-5.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201113-mxt_kyoikujinzai01-000011039-5.pdf)
- 段本みのり，竹内陽子. (2023). 児童の思いを引き出し，主体的にコミュニケーションを図る授業を目指して：言語活動を中心とした授業づくりと ICT の活用を通して. 鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要, 13, 15-24.
- 鹿児島県総合教育センター. (2023). 鹿児島県総合教育センター学習指導案のページ. 鹿児島県総合教育センター. <http://www.edu.pref.kagoshima.jp/research/cooperation/sidouan/>
- 文部科学大臣. (2019). 子供たち一人ひとりに個別最適化され，創造性を育む教育 ICT 環境の実現に向けて～令和時代のスタンダードとしての 1 人 1 台端末環境～. 文部科学省ホームページ. [https://www.mext.go.jp/content/20191225-mxt\\_syoto01\\_000003278\\_03.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20191225-mxt_syoto01_000003278_03.pdf)

- 文部科学省. (2017a). 外国語（英語）コアカリキュラムについて. 文部科学省ホームページ. [https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2019/04/04/1415122\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/04/04/1415122_3.pdf)
- 文部科学省. (2017b). 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）. 文部科学省ホームページ. [https://www.mext.go.jp/content/1413522\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf)
- 文部科学省. (2017c). 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編. 文部科学省ホームページ. [https://www.mext.go.jp/content/20220614-mxt\\_kyoiku02-100002607\\_11.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220614-mxt_kyoiku02-100002607_11.pdf)
- 文部科学省. (2020a). 教育の情報化に関する手引-追補版-(令和 2 年 6 月). 文部科学省ホームページ. [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/mext\\_00117.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html)
- 文部科学省. (2020b). 外国語の指導における ICT の活用について. 文部科学省ホームページ. [https://www.mext.go.jp/content/20200911-mxt\\_jogai01-000009772\\_13.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200911-mxt_jogai01-000009772_13.pdf)
- 文部科学省初等中等教育局教育課程課. (2021). 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料. 文部科学省ホームページ. [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/senseiouen/mext\\_01317.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiouen/mext_01317.html)
- 文部科学省総合教育政策局長. (2021). 教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令の施行等について（通知）. 文部科学省ホームページ. [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/mext\\_00030.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/mext_00030.html)
- 永倉由里. (2021). 小学校現場の実情把握と動画活用による小学校英語指導授業改善ならびに情報共有コミュニティの構築. 教育研究実践報告誌, 4(2), 37–45.
- 佐藤大介. (2022). 小学校英語教育における ICT 活用に関する小学校教員の現状と課題に関する研究. 学校教育研究, 37, 99–111.
- 佐藤大介, 福島治子. (2019). 模擬授業観察による ICT を活用した学生 フィードバック分析—小学校外国語活動・外国語の指導技術の向上を目指して—. くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学研究紀要, 51(2), 73–83.